

こうか市民活動ネットワーク 市民活動団体テーマ別交流会（1月28日）のまとめ

タイトル	市民活動団体のテーマ別交流会
主な内容	「子ども」、「食」、「歴史・文化」の3テーマ別交流会
開催日時	平成19年1月28日（日）
開催場所	サントピア水口
出席	約50名
内容	<p>●開会挨拶（幹事 鈴木）</p> <p>様々な活動をされているみなさんの情報の共有ということで、今回テーマ別の交流会を開催させていただきました。忌憚なくお話いただけたらと思います。</p> <p>●代表挨拶（大平代表）</p> <p>こうか市民活動ネットワークというのは、2005年10月に甲賀市からの呼びかけでスタートしました。約60の市民団体、NPO団体等が集まっています。市民が中心となって、行政におんぶに抱っこではなく、自分たちで考え、行動し、自分たちの地域をよくしていくという思いをもっています。これまで様々な活動をしてきました。その一つとして、交流会を開催しました。この交流会は、最初の年ですので、旧町ごとにどのような団体がどのような活動をしているのかを知るために5町それぞれで開催しました。その他にも、市民と行政が一体となって「協働」というものを考えようと、今年9月に「協働セミナー」を開催しました。この協働のテーマについては、龍谷大学の土山先生に講演をいただきまして、その後、みなさんで話し合いをしました。また、その他にも行政がどう市民活動を支援していくかということを検討するために、「支援研究会」も立ち上げ会議を重ねました。市民・行政が一体となってこの甲賀市をどのようにしていくのかそういうところで動きつつあります。</p> <p>今日は、甲賀地域にある行政では解決できない様々な問題を3つのテーマに絞り議論していきたいと思います。一つは子育ての問題、二つ目に食という問題、三つ目に、甲賀地域にある古い伝統・文化です。</p> <p>幹事会の中で、交流会はずっと継続していくべきだという意見が出ています。交流会を通じて、いろんな交流を続けていかないといけない。まちづくりというのは、まず人が集まるが一番大切で、そこで情報が共有され、そこから、地域が出来上がっていくのではないのでしょうか。</p> <p>今日は情報を共有していただいて、「将来の甲賀に対して我々が何ができるのか」ということを考えていただけると、今日のこの会の目的は達したと考えています。今日は一日よろしくお願い致します。</p> <p>●テーマ別分科会</p> <p>① 「子ども」</p> <p>コーディネーター：（幹事 鹿田）</p>

●鹿田

子どもというテーマということで、0歳から18歳くらいまで幅広く話しをしていきたいと考えています。私自身は乳幼児の子育てをしているのですが、もう少し上のお子さんの思春期の問題であるとか、不登校の問題であるとか、ニートの問題等幅広く意見を伺い、それぞれの活動に活かしていただけると幸いです。

●自己紹介

●話題提供

最初は、子育てがひと段落したときにお母さんが元気になるような託児所を始めました。その後、何人かで集まってキッズママという活動を始めました。若いお母さん方の元気をもらいながら活動をしています。肩の力を抜いて子育てをすることの大切さを感じています。また、地域や小学校でも活動を行っています。

子育てをしていると、子どもを通してしか自分の世界が広がらないので、しんどくなってしまいます。こういうところで情報を共有していただいて、少しでも楽になっていただきたい。

・わたしは、子育てをしている時期がうらやましいと感じることもある。子どもを見かけるといいなあと思う。

・子どもが授業で、「大人は子どもの目線で子育てをしないといけない」と習ってきた。「でも、うちのお母さんはそうじゃない」と言われた。当時、引越してきたばかりで余裕がなかった。

・子どもが小さい頃、「ごめんね」といいながら嫌がるものでも無理やり食べさせてきた。子どもに謝ることもいいことかなと思う。

・いいと思ってやっていたことが、子どもにとってはつらかったということは多々ある。食育を勉強しているが、昔は牛乳は体にいいものと信じてたくさん飲んでしたが、今は、あまりよくないということになっている。これからは地域で取れたものを旬の時期に食べるのがいいとされている。過去のそうした積み重ねがあって今があると思う。

●子育てについて

・子育てはそれぞれの家々で個々に行われていて、情報を交換する機会は少ない。

・子どもは子どもなりに親の心配をしてくれている。目に見えること意外にも配慮が必要。

・親が子どもを心配するように、子どもも周囲のことを気にかけている。後になって気づくことはたくさんあるが、その時々でアクションを起こせるようにしてほしい。それはたくさんの人に出会ったり、情報を共有する中で気づくものではないか。

- ・私も、怪我をしたり、いじめられた時には親には話さなかった。「親に迷惑をかけてはいけない、心配させてはいけない」という意識が根底にあった。
- ・子どもに「いじめられたときには、お母さんが殴りこみに行くから」と言っているが、逆に気を使わせているかも知れない。
- ・自分の子どもがいじめる側にまわった。子どもを連れて相手の親御さんのところに謝りに行った。本気の態度を示せば、子どもも理解してくれる。
- ・いじめることは決して良くないことだが、方向性を正してやればもっているパワーがいい方向に向かう。気持ちのやり場を正しい方向に持って行ってあげたい。

●地域で子どもを育てるという仕組みについて

- ・昔は、いいも悪いも地域で子どもを育てる場所があった。
- ・水泳をさせるとか英会話をさせるという子どもに押し付けるものばかりではなくて、子どもから出てくるものを大切にしていってあげられるような環境があればいいと思う。
- ・地域で子どもの自主性を尊重して遊ばせてくれる団体がある。学校教育では得られないものをそこで得て、自信をもらっている。
- ・地域の力は一昔前に比べて落ちている。地域の子どもの顔が見えなくなっている。
- ・子どもの居場所が家か学校になってしまっている。私が子どもの頃は学校から家に帰る通学路が遊び場だった。今は、危ないからすぐに家に帰ってきなさいとなっている。子どもが外の部分を自分の中から外してしまっている。自分の居場所が外に無いことが大きな問題。
- ・親の側も居場所がない。なかなか心を開けない環境にある。
- ・子ども会も親の都合で活動が弱まっている。親の都合で子どもの居場所がどんどんなくなっている。
- ・習い事も多く、子どもに余裕がない。
- ・今は子どもが満たされている環境にある時代なので、この上更に何を満たしてやるかわからなくなっている。贅沢な中で、人間とは何かを教えることはすごく難しい。子ども達はどこかで打たれたり、どこかで伸ばしてもらったりしているので、したいことをさせてやる時期も必要。
- ・子どもたちが無いものを創り出す機会がない。団塊の世代がリタイアするので匠の技術を子どもに教えてもらいたい。
- ・私の子どもの頃は年頃関係なく、家の近所に集まっていた。今の子どもはそんなことできない。これも時代なのかなと思うが、外で遊んでほしい。大縄を家でやっているが、近所の子どもたちもどんどん集まってもらいたい。子どもの遊びは今どこの家庭でもゲームになっている。「ゲームはあかん」とは言わないが、正しい遊び方をさせている。ゲームをするにしてもみんなまで遊べとい

うことを言っている。社会に出たときに自分で何とかできるような子に育てたい。だが、毎日試行錯誤の連続。

子どもはいつの時代も変わらないが、親や環境が変わっているのでは。いじめ等の問題もあるが、今はじまった問題ではない。それをどう解決するかという能力を身につけることが大切。いじめは大人の世界でもある。

どうやっていい親子関係を築くか。子どもが自分の弱さを親に言ってくれるのは難しい。子どもから出ているサインを見抜くのは難しいが、それに気づくことが大切では。

・お母さんの集まりに参加できる人はいいが、参加できないお母さんもいる。そうしたお母さんが最初の一步を踏み出せるような雰囲気づくりが必要。もしかすると、参加されていないお母さんの方がいいものを持っているかもしれない。アプリコットでは、子どもを遊ばせるのと同時に、お母さん方の関係づくりにも主眼を置いている。

・引越して来たときの受け入れ態勢も大切。きっかけづくりが必要。甲賀市全体で考えていただきたい。

#### ●父親について

・幼稚園や保育園にお父さんが参観に行くと、お母さん同士は仲良くなっているがお父さん同士はそうではない。お父さんも居場所がないのかなと思う。お父さん同士がもっと知り合いになれる機会があればいいと思う。

・お父さんにはちょっと危険なこともしてもらおうようにしている。すると、「お父さんすごい」となる。そうすると、お父さんもやる気が出るし、居場所ができる。安全な世の中になっているので、家の中でお父さんが活躍する場が少なくなっている。

・いろんなケースがあると思うが、お父さんも一緒にというのは大切。

・やはりきっかけづくりが必要。「こういうことをやってほしいから来てほしい」という風に役割を与えるべき。

・僕も正直子育ては女性ということで逃げてきた。しかし、男性だからこそ気づくこともある。気づきも目覚めも男性がすべき。会社や地域等の家庭以外の場面で、家族のことに気づく機会が必要。リタイアした男性陣が子育てをしている女性の意見を聞くことも面白いと思う。ライフスタイルというときは、お金やポストなど自分の生き方だけを言うことが多い。それではいけないと思う。

・お母さんは逃げ場がない。男性がそれを気づく必要がある。

#### ●働いているお母さんについて

・働いているお母さんが増えている。働くことによって得られる自分の幸せと家族のバランスを取るのは難しい。

・働いているお母さん同士の情報交換もできていない。

- ・行政の出番かもしれない。
- ・お父さんと子どもというイベントがあるといい。
- 行政の役割について
  - ・甲賀町から甲賀市になって、子育てのサービスの質が低下した。今までの甲賀町の方がよかった。
  - ・いろいろな団体が情報交換をしようとしていることを行政がバックアップしていけたらいいが、行政もお金の問題等いろいろある。
  - ・甲賀市の地域福祉計画にも子育てのことは書かれているが、今日出てきたような具体的なことは書いていない。気づいたことがあればリアルタイムで意見を出せるようにできたらいい。
- まとめ

今日は子育てに関する情報交換ができたことが一番の収穫になったと思う。

## ② 「食」

ゲスト講師 : 久保 功先生

コーディネーター : (監事 水谷)

### ●久保先生

1965 年から滋賀県の野菜畑を取材してきた。京野菜にかかわらず全国の野菜とお漬け物の文化史、特にどのように関西地区、又は我々の食卓にのってきているのかを追いかけてきた。ちょうど 20 年ほど前の新聞記事に、「奈良時代の貴族が牛乳を飲んでいた」あるいは「氷を作っていた」という記事があっが、実はその中に出てくる長屋王家木簡に、今から 1300 年ほど前の貴族が経営の野菜畑で我々も知っている 40 種類ほどの野菜が栽培されていたことが記されていた。木簡というのは、紙が貴重な時代一般の連絡用として木片を紙の代わりとして用い用件を書いたもの。用件がすむと小刀で削って再び使用していた。地方から奈良の都を支えるために、米や魚、野菜、塩などの生活物資が送られてきた証になる荷札として、上下を紐で結わえ荷物につけ奈良の都に着いた時に提示された。長屋王という貴族の屋敷の一角に埋められていた木簡が今から 20 年ほど前に 1300 年ぶりに発掘された。発掘されたことで、当時の生活、あるいはどの地方がこの奈良の都へ生活物資を送っていたかがわかる。つまりこの奈良の都というのは、地方の人たちや地域の人達の働きによって支えられていたことがはっきりした。滋賀県からは現在でもそうだが、古代江州米が何十石という単位で奈良の都に届けられていることから、我々が考えている以上に歴史的宝庫だ。また、平安時代も滋賀県なしでは考えられない。京漬け物も滋賀県の栽培野菜なしでは考えられない。例えば千枚漬けというのは、堅田から「聖護院かぶら」のルーツがあった。「尾張大根」も滋賀県で育てられ

て京都に伝わって尾張大根となった。色々な農産物の原点が滋賀県にあり、交通の要所ということもあり色々なものが現在でも形を変えて伝えられている。しかし、農産物のほとんどが日本の生まれではない。わらび、ぜんまい、ふき、みょうが、わさびなど山菜類以外の野菜、「大根」、「かぶら」などは世界の国々あるいは民族によって育てられていたのが、数千年の間に日本で育てられるようになり品種が変わった。近江特産、京野菜など地場野菜として脚光をあびている野菜も全て野菜文化があった。40年ほど前は野菜に歴史があるとは考えたことがなかった。北村先生という方の論文には大根は地中海の沿岸原産で中国、朝鮮半島から日本に渡ってきた農産物であることを示唆されていた。他の野菜のことも調べると日本のものは何もない。食を考えるとときにもう一度原点にもどりそのルーツを探ることで、国際交流や発展途上国の問題を考え、食べるということが人間の存在や健康を守ることであることに気づかされる。そうした考え方に立って世界の原産地を正當に評価しなおす必要があると考える。今ある、多くの野菜は内外の先人が苦勞を重ねて世界中からもたらされた物を日本にあう品種に作り上げ、引き継がれてきたものである。滋賀県に引き継がれてきた膨大な物は遺産であり、私は野菜というものは世界の遺産という認識を持っている。

栄養があるから食べるのはもちろんであるが、先人達が育て上げてきた野菜をもう一度次世代に伝えていくことは大きなテーマになる。

●甲賀もち工房 大谷さん

旧甲賀町の小佐治でもち工房をやっております。昨年5月に有限会社を設立し、従来あった施設が狭くなり改装された施設で昨年12月から活動。

●大好き！ごはんの会 粒っ子 富家さん

子どもを和食で育てていきたいと考えているお母さんと一緒に活動。食の大切さを色々な方と一緒に考えていきたい。このような場で食に関わっておられる方の話を聞き勉強したい。

●秀明自然農法ネットワーク 西島さん

無農薬でお米や野菜を作っている。時々その農産物で加工品を作っている。

●忍術研究会 渡辺さん

家で杉谷ナスビを作っている。地域の特産品にできないかと考えている。よいアイデアがあれば教えていただきたい。

●ふれあいパーク 谷永さん

福祉を中心とした3つの事業を運営する団体。その中のイベント事業部でそばを打ちながら交流を深めていくという事業をしている。

●ふれあいパーク 杉田さん

社会福祉協議会の職員であり、ふれあいパークのそば事業は社会福祉協議会からNPO法人となり、社会福祉協議会としてもどのように連携していくかを模

索しながら、仕事としてまた個人の活動として関わっている。

●伴谷老人クラブ 栢木さん

自分の畑で野菜づくり。自分で作ったものは安全である。孫との芋ほり等楽しみの一つである。食というものは、人間の基本でありこだわりがある。先生が野菜のルーツについて話されたが、甲賀にも古い野菜がある。それを守りながら何か地域でためになることはないかと考える。例えば鮎川菜、下田菜は山の中で他の品種と混ざることなく純化し守っておられる。この様なありがたさを感じながら、食の大切さを感じている。

●川瀬さん

写真や文章を書いたり、ホームページ作成をやっている。自分自身、精神的な障害に直面し、玄米食（ギャバ）が脳内にいいと聞き、現代人共通の病を自然の食でカバーできる可能性があるのではないかと考える。信楽には秀明もそうであるが、自然農法で行われているところが結構あり期待している。

●久保先生

野菜の写真を撮影したことはないか。野菜の花には全て花言葉がある。是非、撮影してください。花言葉を機会があれば紹介します。

●手話サークル 宮田さん

耳の聞こえない方たちと共に耳の聞こえない方を理解し、手話を勉強する会です。耳が聞こえないということは、情報が入らないこと。今日は情報を持って帰って伝えたい。

●自主グループ ふらいぱん 山川さん

平成 2 年から生活習慣病にならない食生活にしようと水口保健センターの調理室で活動。レシピをケーブルテレビのテロップで放送。活動としては小さい子どものお母さんに食を通じ、生活習慣病にならない健康な体を作っていけるよう事業を展開。水口の特産のかんぴょうを使った食事の紹介や観光協会と協力し商品を開発したり商工祭に協賛している。また、男の方にも生活習慣病から体を守っていただきたいということで栄養士の指導で自主グループ華板さんを立ち上げた。食生活を通じて生き生き健康でいて欲しいとの願いで活動している。

●自主グループ ふらいぱん 鈴木

栄養士として活動。先生の話でもありました野菜のルーツは大切なことだと思うが、なかなか今伝えられていない。私達のグループでもこのことについて考え、是非次の世代にも伝えていきたいと思っているが、どのような方法があるのかなということに参加した。

●久保先生

かんぴょうは子ども達の給食で出されているのですか。身近に名産があるのだから是非、給食に取り入れて欲しい。そのことで作る方も増えていくのではな

いか。

●山川さん

テレビで栃木県にかんぴょうの名産地が放送されていたが節分のかんぴょう巻きを作っておられた。水口でもその様なものがあると思った。

●久保先生

水口でもここにしかないというものを考える必要がある。

●山川さん

友達が栃木にいたので、かんぴょうをもらったが真っ白に漂白してあった。水口のかんぴょうとは全然違った。

昭和 59 年に栃木県とかんぴょうの交流会を水口で行った。その時は栃木県と滋賀県の水口がかんぴょうの名産地だということで交流したが、その後水口のかんぴょう農家が少なくなってしまい、栃木県が有名になってしまった。

●山中さん

障害者のボランティアをしているが、偏食障害の女の子が知り合いに結構いる。偏食障害というのは、食べ物がたくさんあるこの時代になぜあるのかと思いき参加した。

●中村さん

仕事柄、高齢者の摂食に興味があり、虫歯や歯周病の予防、食生活や栄養に関しても少しずつ学んでいきたいと思っている。

●多羅尾生活改善グループ 田中さん

滋賀県の一番南にある多羅尾というところで活動している。隣は三重県、奈良県、京都府で歴史的にも大変有名なところだが、今は過疎化になっている。ここで漬けるお漬け物がとてもおいしいと喜ばれている。今日はお漬け物を勉強された先生が来られているので勉強したいことがたくさんある。「ずいき」のお漬け物のレシピを持ってきていますが、多羅尾独特のお漬け物で歴史などを知りたくて来ました。

●藤本さん

現在水の関係の仕事をしている。日本の水道水法はあまり基準となっていて、水と食に関してどのように思っておられるか聞きたい。

●水谷さん

皆さん一通りお話しいただきました。今日のテーマですがチラシにもありますように、「食の安心・安全」「健康な食とは」「食育」「食文化」「食と環境を考える」「食のこだわり」「食とふるさと」「課題」「後継者」などがあればお話し下さい。

●久保先生

今、かんぴょうのお話しが出たが、よく地場野菜を一軒の農家だけが守ってこられた。またこれを復活するときに、必ずしも大量生産して市場流通に結びつ

ける必要はないと思う。

復活すればすぐに市場に出さないといけないというような思いでされるがその必要はない。地元の子供達に食べさせるだけでできればいいと思う。地場の野菜をつくっているところ、料理を作っているところを子供達に見てもらうことで、野菜や食べ物を大切にする心を養っていけると思う。聖護院大根という丸い大根は、元々、名古屋の春日（はるひ）町というところの「宮重大根」で、これは現在「青くび大根」と言っている。この「青くび大根」と「聖護院大根」は兄弟です。今から100年ほど前に「聖護院大根」は丸くなった。「聖護院大根」200年ほど前に「宮重大根」が京都のお寺に供えられ、地元の聖護院村の人が種をもらい受けて育てた。このことから、野菜というのは日本全国、世界中につながっていると考える。

このことから、土山の鮎河菜。アブラナ科の野菜だが、鮎河だけでなく甲賀市に広げてもいいと思う。

先ほど歯周病の話も出ていたが、昔はおやつにソラマメのような硬いものを食べていた。だんだんその様な硬いものを食べなくなってきた。歯やアゴは硬いものを食べることで強くなるが、今我々の身の回りからなくなっている。せめて、自分たちの食べる分だけでも作ると一番いいのではないか。

先ほどの「ずいき」のお漬物。サトイモは米よりも早くに日本に伝わり、おそらく縄文時代には栽培していたのではないか。今のところ日本に来た一番古いものは「ひょうたん」で1万年前。瀬田川遺跡ではひょうたんの種が発見された。

甲賀市にいっぱい宝物がある。これから、そのような宝物を我々の眼から見てどのような値打ちがあるのか、どのような価値観を持っているか、もう一度掘り起こしてみる。自分には価値のないもののように見えても他の人から見れば宝もの。その様な宝のものを身近な目でもう一度見て探し出す作業からはじめたらどうかと思う。探し出したものの中に、他県で兄弟として存在する可能性がある。

京都の九条ねぎの子供が兵庫県や広島にある。滋賀県は日本で一番赤かぶらが多い。また、日本で一番古いのではないかという漬物の木簡が奈良県で発掘された。大津の近江神宮の上に天智天皇が建てたお寺がある。平安時代になってから嵯峨天皇がお茶を飲んだといわれ、志我山寺という名前で木簡に出てくる。そこには都保菜（つほな）という野菜のお漬物を持っていけという命令が書かれている。その他に奈良で漬けられたかす漬物の「からなすび」という「とうがん」をお漬物にしたという、木簡も発見されている。かす漬けが出ているということは、酒もできたということ。酒の木簡というのは、長屋王家の木簡の中に、水と米とこうじの比率が6通り書かれた木簡が出土。専門家からすれば、おもしろい資料だと思う。

●  
お漬け物というのは何のためにつくられたのか。

●久保先生

食べ方の一つであり調理方法。お漬け物は環境に優しい伝統料理であると考えている。お漬け物は塩だけでエネルギーがいない。CO2 が発生しない。これほど環境にやさしい調理方法は世界中探してもない。お漬け物が保存食として発達したのは江戸時代。たくわん和尚から以後日本全国に広がった。江戸幕府の参勤交代制度の時代、たくわん和尚が家光と親しくしていたので、参勤交代の時に和尚が大根の種とたくあんの作り方を渡したという説がある。20 年ぐらいまでは大根の収穫量はトップであった。大根の種類は 70~80 種類ある。多羅尾ではどのような大根の種類ですか。

●田中さん

青くびです。

●

ぬかずけの始まりは何なのか。

●久保先生

邪馬台国の卑弥呼が食べていたお漬け物ではないかと思っているのが、魏志倭人伝の中に「倭の国はこうか温暖にして生菜を食す」とあり、日本の野菜の事が始めて書かれている。

●山中さん

野菜の歴史を聞き大事なことだと思った。私達が普段活動をしてきて感じていることは、この辺でも野菜を作っておられる方がたくさんおられるが野菜を作っても若い奥さんが使ってくれないという現状がある。これをどのようにしていけば野菜を使ってもらえるのか考えて活動しているが、皆さんはどのようにお考えですか。

●久保先生

子どもに対して仕掛けるのも手である。子どもに食べなさいと言ってもなかなか食べない。好きになってもらうのが大事。

●山中さん

お母さんが作ってくれるかどうかだ。

●久保先生

親子の料理教室をよくやっておられるが、これには子どもも親にも野菜ファンになってもらうプラスαがある。

●山中さん

毎日毎日のことであって、イベント的にやって「よかったな」「また作りたいな」といっておられても家では作らない。でも、少しずつでも理解してもらいたいと思い活動している。

●久保先生

アメリカで癌が減ってきたということを聞くが、健康志向の食事になってきたからであって、日本はそれがなかなか進まない。

●水谷さん

キーワードとして農業体験を多くやってもらうということ。近場で数多くの人にやってもらう。そして、野菜に親しんだ人に、召し上がった喜びを感じてもらおう。あるところでは、その様な野菜を上手に利用し料理しながら楽しもうと活動しておられる。また、ある店で、甲賀の野菜を使ったお惣菜を作ってもらおうように持ち掛ける。と言うようなこともできる。田中さんはどのようにお考えか。

●田中さん

平均年齢 70 歳の人たちが集まって、多羅尾温泉で市をやっている。後継者作りに悩んでいるが、今一人大変興味を持ってきていただいている若い方がいる。私達は多羅尾小学校で体験を沢山してもらっている。去年は学校農園にこんにゃく芋を植え、手入れをして芋を採って、私の工房でこんにゃくづくりを体験した。6年生ぐらいになるとこんにゃく作りを一人でもできるようになる。また、かしわ餅の継承だが、復活はできたもののどうしようかと思っていたが、子ども達と父の日と一緒に作ることができた。昨年、私の家には美味しい井戸水があるので、PTAの方たちと一緒に竹を切って流しそうめんもした。このような体験をさせていただいていると、今まで何もいわなかった子ども達が「かしわ餅ありがとう」と言ってくれるようになった。でも、お父さん方からは「田中さんありがとう」という声を聞くが、お母さん方からは聞かない。公民館の方に聞いたが、お母さん方が公民館を使われるとあと片付けができていなかったりお礼を言わない方が多く困っておられるそうだ。別に私達はお礼を言ってもらおうと思っていないが、反応がなく困ったものだと思っている。先ほどの野菜の話だが、おばあちゃん達が畑からとってきてきれいに洗って置いておくと使ってくれる。だからできるだけおばあちゃんが協力して、野菜を食べてくれるようにしてもらっている。何でも買える時代なのでなかなか大変。温泉でも無農薬の野菜を販売して沢山買っていただきありがたいことだが。

また、ふれあいパークさんと一緒に、信楽の駅前で農家レストランをやっている。ご飯には粟を入れたごはん、脱穀を入れたごはん、多羅尾のお漬物、こんにゃく、自家製味噌を使ったみそ汁を信楽焼の陶器を使って器で食べてもらっている。京都や大阪のお客さんが楽しみにしてくれている。

●栢木さん

私が食に関心を持ったのは 10 年ほど前に農産物に関するセミナーで、大学の先生が「知育」「体育」「食育」という言葉をいわれた。これら 3 つのことは全て食に関係し、小さい頃からまた学校で身につけさせていくことが必要と言

われ心打たれた。世の中がだんだんと変わってしまっ、つくる農産物も、食べ方も変化している。昔は米をたくさん食べ、にしんやいわし、お漬け物を持って山に行ったりお餅をついたりした。今はそのようなものはあまり食べない。また、作る野菜も年々変わってきています。例えば、愛荘に山の芋があったが形がまったく変わってきている。もう一度復活させようと思っても純粹の地の種芋がなくなってしまっている。滋賀県の農業試験場で努力されるがなかなかもとに戻すことができない。また、食べ方も変わってきている。京都大学の先生に聞いた話だが沖縄からハワイに移住された方の話で、沖縄は昔から日本一の長寿県であるが、ハワイに移住すると長者でなくなる。何故かと言うと食べ物が欧米化した食事になるから。沖縄でも一時米軍の占領下であったので、食が変わり成人病の問題もでた。今、日本一の長寿県を取り返そうと頑張っておられるが一度失ったものはなかなかもどらない。小さい時に食べたものはなかなか忘れない。いい意味も悪い意味もある。悪い意味で言うと、小学校の頃、アメリカから来た小麦粉で作られたパン食を給食で食べ、私達の時代のものでもパン食に親しんでいる。小さい頃からのしつけや習慣は大切である。市の施策の中でも健康づくりの中に食育が出され、農産物の販売も地の物を大切にしようとしている。私は、保育園、幼稚園、学校の頃から食育をやったかどうかと考えているが、裾野の広い分野なのでただ単に学校で食育と言うだけでは実現しないと思う。皆さんの知恵をかりながらやっていきたい。食育というのは食に関する新しい知識を身につけて、健全な食生活の実現と食文化の継承、これは国の考えだが、私達が考えるのは、食の知識をもう一度認識し、健康で豊かな人間性を養えるような目を伸ばしていきたいと思っている。平成17年の6月に食育基本法が制定され、平成18年3月に食育推進基本計画が策定された。平成18年6月に食育推進全国大会が大阪で開催された。各都道府県でも食育に関する条例が21都道府県で制定された。この様な芽をあちこちで伸ばしたいのが私の夢。全国で色々な取組みがあるが、朝ごはんを食べるというフォーラムを甲賀市内でも行われた。「早寝、早起き、朝ごはん」これは食育の関係ですが、各学校でも取り組んでおられる。伴谷小学校でも作法の問題、手をよく洗いましょうなど取り組まれている。ただ、学校でやってくださいというだけでは難しい。先生方が、食育に関する知識を得にくい。学校に押し付けて終わるとい事になりかねないので、大切な目を育てていきたい。

●藤本さん

日本の水道水についてお話しします。元々は各地域でプールをたくさん作って自然のろ過をしていた。それが昭和26年にアメリカで強制的にろ過する方法が行われた。その時にトリハロメタンや塩素などの物質が出てきた。現在アメリカは、急速ろ過をやめ全部普通のろ過に戻ってしまった。アメリカは日本にその様な技術を教えておいて、もとに戻してしまうようなことをした。京都

の蹴上の水道局は、昔は全部プールであった。もう一つは、東京の都庁の西新宿は全部プールであった。そこで自然ろ過をしていたが場所がなくなることで急速ろ過になった。その時にアメリカでは、ハイクラスの方の食材は農薬ゼロ、低所得者の食材は農薬が入るようになりそれが日本にも入ってきている。例えば、日本から車を輸出し帰りの船はとうもろこしでいっぱい。それはあくまでも農薬いっぱいの食材。今、一番気になるのが、体に影響を与える不純物に敏感になっている人が増えていること。その様なところから無農薬野菜を使っていくことがテーマになっている。もう一つは生活様式において、今の若い女性の方は、家に砂を持って入るのを嫌がっている。植木鉢に花を植えていても、そのまま捨ててしまう。植え替えない。だから、野菜でも掃除をしておくを使う。昔は野菜を掃除する場所が家の中にあった。今は場所がないから台所になるが台所が汚れるから嫌がる。だからその様な面を解消するなり何らかの方法があると思います。

●手話サークル 鈴木さん

元々は名古屋市に住んでいた。甲賀市に移って驚いたのは、買い物の量が多いこと。なぜなのかと考えると、名古屋市では1日分の食材だけを買います。甲賀市では2、3日分の食材を買う。それはなぜなのか、野菜などは腐らないのかと思う。それともう一つは、実際に名古屋市の野菜は高かった。古いが高い。新しい品物は逆に安い。それはどうしてなのかと考えると、沢山買って売れるまで料理をして売っていく。みなさん、知識を持っていただきたい。皆さんも県外に行かれたときに考えていただきたい。滋賀県の方が県外より安い。できれば身近なところから問題解決していくといいと思う。

甲賀市の豊協会として話します。今日は新しい情報として話を聞いた。よい物、有名なものがあることを聞いて驚いた。名古屋から移ってきていい環境になったのかわからない。名古屋市は物価が高い。名古屋市で子育てをするのがいいのか、安い所でするのがいいのか分からないが、私の考えとしては安い方がいいと考えます。これは話を聞いてわかりました。だから、滋賀県で元々作っているものがある事もわかりました。これに対して情報をみんなに伝えることが大切。滋賀県で作っているものを名古屋市に持っていか、価格の差、美味しいもの、安全なもの、産地などの情報も欲しい。聞こえないものにとつて、情報が大切なので、詳しく表示して欲しい。

●富家さん

子どもの食育の事について皆さんからお話がありましたが、私達のグループでは、子どもを持つお母さんと一緒に活動をはじめたばかりですが、若いお母さん達は便利なので買って来たものやきれいなものを消費したりとか、買ってきてそのまま並べたりする方が多くおられると思います。でもそれで子どものためのいいのかと思っていらっしゃる方も多いと思います。私もその中の一人

なのですが、声をかけて 10 数人の仲間が集まったということは、関心を持っておられる方がおられると感じた。私達は、関心を持っているものとして、こうしなさいではなく、やわらかく進めていけたらなど考えています。旬の野菜がいいのはわかっている、めんどくさいと思っている方もいると思う。でも、それを食べたら美味しかったとか、顔が見える野菜がいいとかよさをわかっもらうことが必要と思う。小さい頃に食べたものは、大きくなっても残っていくという話を聞きましたが、子どもを通じて親が変わるということもあると思う。だから子どもが毎日食べる食事に、野菜を使っただけならと思う。甲賀にはいいものを沢山作っておられる。子ども達に作っておられるところを見せるということも必要だと思う。また、関心を持たせ、自分の住んでいるところもいいところだと気づけていけたらと思う。このような交流会で、色々な方に話を聞き、交流をしていきたい。

●大谷さん

先ほどから、野菜を何も食べてくれないという話があったが、もち工房の関係で、保育園の研修担当をしていますが、その中で、柏木保育園では、自分達で作って野菜を食べている。そうすると、苦手なものでも自分達で作ったものは食べてもらえるという話を聞く。また、私の家でも、孫と大根の種まきやたまねぎの定植を一緒にします。そうすると孫も一緒に作ったということで美味しく食べてくれる。

●谷永さん

ふれあいパークは福祉を中心として活動をしている。社会福祉協議会の呼びかけで始まったものです。食というのは人の体をつくるという大事なものですが、同時に人と人をつなぐ、ふれあいも持つことも大切。そばを通じて親子のふれあい、障害者の方とふれあう活動を行っている。そば作りは、信楽にはなかったがだんだん広がってきているように思う。そば農園はバリアフリー農園となっている。

●久保先生

食べること、農産物などに皆さん優しい目を注がれているように感じました。農業をやっておられる方を私は「命育て人（びと）」と言っている。命を育てていくということは、そこに思いやりを育てること。その背中を見て、子ども達が思いやりを持つと信じている。このような色々な方たちの話を聞かせていただくと、優しい国になると思っている。農産物を育てるということは、古代の人にとって、何時間でも慈しみ芽生えを待っていたこと。この様な気持ちで育ててこられた農産物が、今私達が食べている。この様な気持ちや歴史を子ども達に伝える必要がある。そして、甲賀市の宝物をもう一度身の回りの身近なものから探してみて、次回に持ち寄って紹介していただきたいと思う。

③ 「歴史・文化」

コーディネーター：(幹事 木村)

●活動の現状と問題点

・夏祭り(甲賀町)を商工会が20年開催してきたが、参加者がだんだんと減少してきた。そこで、「よさこい祭」をヒントに甲賀版の「よさこい祭」をやろうと考えつき、子どもたちからお年寄りまで馴染みの深い、江州音頭を現代風にアレンジしたものを生み出した。しかし、昔から甲賀に住んでいるのではなく、新しく外から越して来られた方はこの地域の歴史や文化に触れる機会が少ないので、江州音頭を知らない子どももいる。そうした地域の歴史や文化を学校で教育できるといいと思う。

・夏祭りを主催するNPOを立ち上げた。会員は約50名。当日はボランティアが100名程度参加してくれる。滋賀県内に広く呼びかけ、県内の大学生が「学生実行委員」を立ち上げてくれた。

こうした活動を通じて、子どもに踊り等の文化が継承されていないと感じた。身近なところから伝統・文化が消えていっている感じを受ける。

●曳山の伝統について

・昔は各旧町で伝統が継承されていたが、若者の減少等の要因により、文化が廃れていっていると感じる。このままでは、自然消滅してしまうので、もはや旧町単位ではダメで広域化していかなければならないと感じる。

伝統行事として水口祭を開催しているが、ただ「楽しければいい」というものではない。祭は「神事」という側面があり、押さえるところは押さえなければならない。人集めもただ単にオープンにできるものでもない。そうした神事という面を嫌い、離れていく人も多い。新興住宅の住民の取り組みや世代シフト、参加メンバーのシフトなど課題は多い。

・土山の祭でも同じような現象が起きていて、子どもたちは参加していない。

・日野祭

・形式にこだわるのは、誰でもできるようにルール化されているから、しかし、それは裏返せば「自由がない」となる。

●全く新しい取り組みは？

・JCでは、市民・NPOと共にまちづくりについて考えている。そこで「鹿深(こうか)の誇り(たから)探し」という活動を行っている。これは、市民の自治意識を高めるとともに、連帯感を高め、ネットワーク化をはかることを目的としている。また、「市民フェスタ」を開催し、甲賀地域(甲賀・湖南)の市民に愛着も持ってもらうと活動している。

多様なセクターとの協働は、新たな事業を生み、自治意識の高揚になると思っている。新住民と旧住民の触れ合いの機会、地域のシンボルといえる誇り(たから)を見つけていきたい。

●「まちづくり委員会」の活動

各団体の活動の認知、関係づくりを行っている。

●自分の地域の誇り（たから）、愛着のもとになっているものは？

・商工会の青年部は当初活動が無く、何かやろうと思っていて、「わんぱく相撲」を開催した。これは、水口観光協会が相撲部屋の合宿とつながっていたということをヒントにした。地域で子どもを育てるという意味も込めた。水口の子どもを対象にしていたが、合併を期に市域へと対象を広げている。

●歴史・文化について

・伝統とは、伝えられたものに新しい工夫を加えるもの。祭にしても「楽しければいい」それが原点ではないか。時が経つと次第に形式化していくものだが、「時代に即したもの」にしていけばいいと思う。

しかし、「楽しい」の意味を履き違えると、ただの悪ふざけになってしまう。子どもたちの学校教育での押さえつけをうまく発散させてやるようにしなければならない。イベントをすること自体は簡単なこと。それを通じて、意識をどう変えていくかがポイントだと思う。

・岸和田のだんじり祭は、「だんじりを行うために仕事をしている」と市民が思うほどその地域に根付いている。ちいさい頃からの積み重ねられた価値観はすごく大切。

・歴史、文化とは「子どもづくり」ではないか。JCでは、若い世代から地域に愛着をもてるように地域の文化に触れてもらおうと考えている。団体行動のとれる子どもが自立心のある子どもだという意識のもと、毎年各地域を回り、体験を通じて共同生活の大切さを学んでもらっている。今後は地域の人とも協力してやっていきたい。

・土山読書会

子育てを終えたお母さんたちの会。「地域の子どもは地域で守る」を目的に、新しい時代に地域の文化を引き継ぐために語り継ぎを行っている。

・信楽焼

信楽焼といえば狸が有名であるが、実は狸製品は売り上げ全体の5%にすぎない。信楽焼の歴史は1200年だが、狸の歴史は100年しかない。そんな狸の持つパワーとは何か？それは、100年の間に、時代に合わせて姿を変えていることではないか。外から情報をもらい、外へ発信する。そうした柔軟性が成功の一つの要因であるように思う。

狸というキーワードから地域づくりをしたいという思いから、狸の展覧会を開催した。すると、また違った視点で地域を見直すことができた。形として後世に残るもの、知識として後世に残るもの、有形、無形の伝統・文化の奥深さを感じる。

・教育委員会が選定した百景があるが、知らない人が多い。学校の校庭にある塚のことを知らない先生もいた。やはり、子どもの頃からの教育が何より大切。

無いものを探すより、あるものを活かしていかなければならない。まちづくりとは大きいことをすることではないと思う。

・今津町の三谷という地域では、集落の出来方を振り返る活動をしている。  
・甲賀町商工会青年部では、提案公募型事業の一つで、自転車地域を回る活動をしている。やはり地域について知らないことが多すぎると感じる。地道な活動を通じて伝統を継承していきたい。

・信楽では食事、水、環境、自然・・・すべてをネットワークで結んでみんなて話し合っていきたいと考えている。

・水口では、伝統的な食文化であるかんぴょうを活かした「かんぴょう祭」が伝統的に続いているが廃れている。本質を理解せずに現象だけを残すものが多い。

・甲賀は歴史や自然の宝庫

・甲賀市に愛着を持ってもらうには、地域の誇り、アイデンティティの再構築が必要。世代間交流+まちづくり。甲賀地域は人口が増加しているので新興地域の住民にも理解してもらいたい。

・子どもたちの育成は地域ぐるみで、それがまちづくりになる。

・小さい頃から意識せずに祭りに参加していたが、今素晴らしいことだと気付いた。理由もわからずに伝統行事をしても持続できないので、伝統を継承する理由を考えていきたい。

#### ●今後どう発展させていくか

・大津祭はNPO法人を立ち上げ、予算化・担い手育成を行っている。そこに補助金がつく制度になっている。また学生ともリンクし、学生の持っている時間とパワーと、NPOのお金と信用を組み合わせることで祭りを盛り上げている。伝統にどういったものを付加していくかが重要であると思う。

#### ●参加者アンケートの結果

##### 1. どこから来られましたか

水口 19人

甲南 3人

信楽 8人

甲賀 4人

土山 4人

その他 0人

##### 2. 職業を教えてください（任意）

自営業（会社経営者含む） 12人

会社員及び公務員 9人

パート 2人

	無職	13人
	回答なし	2人
3.	交流会に参加した感想（複数回答あり）	
	今後の経営や活動の参考になった	20人
	意見を言い、交流をもてて満足した	20人
	話しをする時間が短い。又はなかった。	4人
	楽しかった	1人
	何も参考にならなかった	1人
4.	その他	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分科会にしては人数も多く（普通なのかなー）あまり話せず少し興味の対象が違った。</li> <li>・ 食育の話し等には現場の保育士さんの声が聞きたかった。</li> <li>・ 最中おいしかったです。</li> <li>・ 人が多すぎて堅苦しく楽しくなかった。せっかくレストランでしたのに。</li> <li>・ 食材、食育などのこだわりのある人ごとに班を作って欲しかった。</li> <li>・ 他の分科会と同室であったことが残念（混声した為）</li> <li>・ テーマをもう少し絞った方が話しやすかったのでは</li> <li>・ いろんな立場の人が食に関心を持たれていて、いろんな話を聞けてよかった。</li> <li>・ 食育について今、世間で騒がれています。今回は大変勉強になりました。</li> <li>・ 会の雰囲気がよかった。時間があるようでない感じをもった。</li> <li>・ 新しい情報をいっぱい入れることができた。ありがとうございました。</li> <li>・ 子育ての意見要望に対して市が「その分税金をアップしてもいいですか」みたいなことを言われました。本音としては分かりますが、交流会に参加し状況をよくしようとしている人に対して失礼だと思います。そこを突かれるとこちらは何もいえません。</li> <li>・ 色々な方と出会えて良かったです。</li> <li>・ いろんな市民活動に参加されているグループの方と話しができ良かったです。自分達から発信していく重要性も感じられました。</li> <li>・ いろんな方との交流ができ収穫でした。ありがとうございました。</li> <li>・ いろんな方の話しを聞かせていただき、貴重な体験ができました。自分のできることは何か。また考えて行動に移していきたいと思います。ありがとうございました。</li> <li>・ 「子ども」で参加しましたが、若いお母さんが子育てに向かっている姿に色々考えさせられました。時間が限られていたので、ま</li> </ul>	

	<p>た絞ったテーマで話せたらと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 甲賀の活性に向けて期待</li><li>・ 郷土の発展を考え、実行しておられる方々の熱意と意見を聞いてよかったし、自分の出来る事もっとある気がした。</li><li>・ 久保先生のお話しおもしろかった。</li><li>・ 話す時間が多くありよかった。</li><li>・ 継続的に参画を希望いたします。</li><li>・ 定期的開催を希望します。</li><li>・ 食という生活に身近な話題で楽しかったです。</li><li>・ よい場所で楽しかった。ちょっと狭かった。</li><li>・ 野菜のルーツのお話しと漬け物について特に興味深かったですが、皆さんとても大切な事に取り組まれていらっしゃるのだと思いました。</li><li>・ 自分達の畑で作っている野菜のルーツと今の環境にあっているのか、元々の味は甘いのか辛いのか知りたい。</li></ul>
--	---